

いのちは儂い。心はもろい。けれど、たくましい。
この作品が暗闇に射す一筋の光となり、
次の世代への道しるべとなってくれますように。

渡辺真子(作家/「捨て犬を救う街」)

動物たちのいのちを見捨てる国に、人の幸せなどあるはずがない。
だから人の幸せを考えると、この作品に映る動物たちの姿から、
目を背けてはいけないのだ。

杉本 彩(女優/作家)

『犬と猫と人間と』から4年。 ふたたび、いのちをめぐる旅が始まります。

東日本大震災では多くの人々、犬や猫などの動物たちが被災しました。しかし被災した動物の数は自治体でも把握しきれていません。今なお保護活動が行われていますが、私たちはその現状を知ることさえ難しいのです。

「まだ新しい犬は飼えないけど、いつかまた…」津波で愛犬を失った夫婦が失踪を受け止めてゆく長い道のりに寄り添いました。津波を生き延びた男性と野良猫が再会し、次第に家族となっていく姿など、いくつもの別れと出会いを見つめます。

原発事故に翻弄される福島では、取り残された犬や猫を待っていた苦難が今も続き、飼主やボランティアの人々が立場を越えて困難に立ち向かう姿を通して、いのちの意味を問うていきます。

僕らがまだ知らない、動物と人間のいま 未来につなぐため、いのちと向き合う

監督は、宮城県出身の映像作家・宍戸大裕。変わり果てたふるさとに戸惑い、カメラを向けることが出来ずにいた監督。しかし、懸命に生きる動物たちと彼らを救おうと奮闘する人々と出会い、600日に渡り正面から向き合っていきます。

プロデュースを手掛けたのは、一人の猫好きのおばあさんの「不幸な犬猫を減らしたい」という思いから生まれ、09年に劇場公開され話題となった『犬と猫と人間と』の飯田基晴。

本作はスクリーンを見つめる私たち自信がともに生きるいのちについて考え、未来へと繋いでいくための物語なのです。

3.11からのユニバーサルデザインのまちづくり

『大震災に備えて、人と動物の関係を考える』

1部 ドキュメンタリー映画『犬と猫と人間と2～動物たちの大震災～』《ダイジェスト版》上映会
& 宍戸大裕 監督 被災地の動物たちを語る

2部 パネルディスカッション『その時、あなたとペットたちは。。。』
コーディネーター：成城大学法学部 教授 打越綾子

日 時：平成25年5月1日(水) 18時30分～(受付:18時～) / 場 所：豊島区勤労福祉会館 6階 大会議室

お申込み・お問合せ FAX. 03-5961-3903 または e-Mail ud311sc@yahoo.co.jp
※メールの件名を「5月1日問い合わせ」としてください。

締 切：4月28日までにお申込下さい。

【参加申込】※参加費として、当日受付で500円を申受けます。

ふりがな
氏 名

職 業
所 属 等 ※任意

連絡先 住 所 〒 -

Tel () Fax () e-mail @

主 催：3.11からのユニバーサルデザインのまちづくりを考える会

後 援：豊島区/東京都獣医師会豊島支部/東京商工会議所豊島支部/(公社)豊島法人会/としまユネスコ協会

